

3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.2 検討会2回目～デジタル化の方向性～

検討会2回目では、課題の分析結果である「ありたい姿」の中から、特に議論が活性化した上位のものからデジタル化の方向性とプロトタイプに実装すべき機能を検討しました。



1回目の得票数合計順位



2回目の得票数合計順位

活発に議論されたありたい姿（グループA・B・C全体の集計結果）

A 目的・ゴールの明確化 1位 1位 記載すべき情報(目的やゴールなど)の明確化によって、面談や記録の質が上がり、支援の質が向上する	B 伝わりやすい表現や記載量 どの機関が見ても正確に伝わる表現を、適切な量で伝えることで記録の質が上がり、支援の質が向上する	C 資料毎のバラつき低減 3位 1位 共通ルールに則り、記録資料の品質バラつきが減ることで、支援員の負担が軽減される
I アクセスコントロールやセキュリティ 共通ルール、システムにより、迷わず安心して共有・開示範囲を定められる事で、連携の質向上と迅速化が進む	J 抜け漏れの無い迅速なロジスティクス 情報入手後の内部展開や、すぐに回答できる体制構築により、連携の質向上と迅速化が実現される	
K 資源や制度情報の集約 3位 1位 最新の地域資源情報や制度情報が集約されることで、必要な機関の検索・選定や調整の負担が軽減される	L 自立能力を有する方へのアプローチ 自立の見込みがある人に適切な情報を届けることで、相談者の自立を促し、支援員の負担が軽減される	
Q 過去・類似ケースの検索 過去の関連資料や類似事例が簡単かつ素早く実施出来ることで、負担軽減と共に、迅速なフォローの実現に繋がる	V 統計・実績管理の手間解消 統計・実績を楽にしたい	U 先輩との相談前の行動 サクッと手元で調べられる
P 進捗管理/フォローの抜け漏れ防止 3位 1位 継続的支援の中で、支援者が相談者の現状(状態や進捗状況)を迅速に把握出来ることで、支援の質が上がる	Q 過去・類似ケースの検索 過去の関連資料や類似事例が簡単かつ素早く実施出来ることで、負担軽減と共に、迅速なフォローの実現に繋がる	
N 日程調整の負担軽減と関係性構築の確立 1位 相手との関係性を深めながら、全ての機関に対する日程調整がワンストップで進み、支援員の負担が軽減される	H 複数機関への重複説明 3位 必要最低限の手間で、複数機関に素早く情報連携でき、支援員の負担が軽減される	

※同率1位のため2位なし

デジタル化アイデアの方向性

共通のルール・フォーマットで運用できること

アクセスコントロールが可能なこと

検索/照会ツールとして使えること

支援状況のモニタリングができること

コミュニケーションツールとして使えること

プロトタイプの実装機能

相談者情報の記録

ルールに応じたアクセスコントロール

資源・制度照会

過去事例・統計検索

進捗管理・フォロー

会議調整

3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.2 検討会2回目～デジタル化の方向性～

グループAでは、「要点を簡潔にまとめられる」と、書き手/読み手の双方の作業負担が軽減するだろうという意見がでました。また、「日程調整」「中心機関の選定」を機械的にするようなアイデアも考えられました。

グループA：中核地域生活支援センター（市原圏域）、柏市、市原市



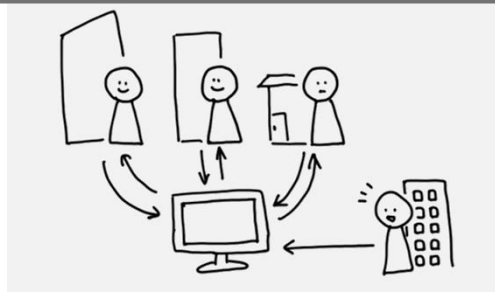
得票順位	1位①	1位②	1位③	その他ポイント
	4 票	4 票	4 票	
ありたい姿	A 目的・ゴールの明確化 記載すべき情報(目的やゴールなど)の明確化によって、面談や記録の質が上がり、支援の質が向上する	C 資料毎のバラつき低減 共通ルールに則り、記録資料の品質バラつきが減ることで、支援員の負担が軽減される	N 日程調整の負担軽減と関係性構築の両立 相手との関係性を深めながら、全ての機関に対する日程調整がワンストップで進み、支援員の負担が軽減される	N 行政と委託先で忙しさの程度を共有したい
想い	大事なところを欠落させることなく、記録を纏めたい	一番負担のかかる「記録の作成」作業を楽しみたい	現場の予定の埋まり具合を把握し、迅速に予定を決めたい	2～3週間は常に予定が埋まっており、次の日程調整が1か月になることを認識してもらえ
共感理由	<ul style="list-style-type: none"> 共通フォーマットにより、資料が統一され記録の質が上がる 表現の裏にある意図も明確になり、支援の質が上がる 	<ul style="list-style-type: none"> 主語のバラつきが少なくなる等により、書き手/読み手の負担が減る 文化の違いによる記録の差が軽減され（記載粒度や認識の）足並みがそろ 	<ul style="list-style-type: none"> メールや電話での「何度も」のやり取りが必要なくなる 直近の空いている時間が分かり、早めの打ち合わせが計画出来るようになる 	N 心理的不安を減らしたい 日程調整や中心機関の選定など、気を遣う作業を自動化することで心理的負担が減りそう

3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.2 検討会2回目～デジタル化の方向性～

グループBでは、支援の質を上げるために、見落とししない工夫や情報共有のありたい姿が議論の焦点となりました。また、参加者のご意見から、2つの新しいありたい姿が導出されました。

グループB：市川市、船橋市、中核地域生活支援センター（市川圏域）



得票順位

1位

5票

2位①

4票

3位

3票

その他ポイント

ありたい姿

P 進捗管理/フォローの抜け漏れ防止

継続的支援の中で、支援者が相談者の現状(状態や進捗状況)を迅速に把握出来ることで、支援の質が上がる

K 資源や制度情報の集約

最新の地域資源情報や制度情報が集約されることで、必要な機関の検索・選定や調整の負担が軽減される

F 情報の出し手側の伝え方

情報の出し手が、受け手機関への配慮と敬意をもって、相談の目的やゴールを含めて情報共有出来る

U 先輩との相談前の行動

サクッと手元で調べられる

Q 過去・類似ケースの検索

想い

多機関協働中の見落としをなくし、継続的支援を実施したい

社会資源情報もみんなで共有することで支援の質を上げたい

出し手と受け手の間で正しい情報共有を実施したい

V 統計・実績管理の手間解消

統計・実績を楽にしたい

共感理由

- プレイヤーが多くなっても、多機関同士で見落とさず情報共有が出来るようになる
- システムを見ることで一定期間コンタクトがない相談者が分かり、支援が継続できる

- 地域全体のデータベースのようなものがあることで、情報検索の効率上がる
- 社会資源をみんなが共有することで、支援の仕方がより良い方向に変わる

- 背景、文脈など、出し手の意図を受け手に伝えられる
- 情報の出し方で相手の力量が判断でき、地域の課題が分かるようになる


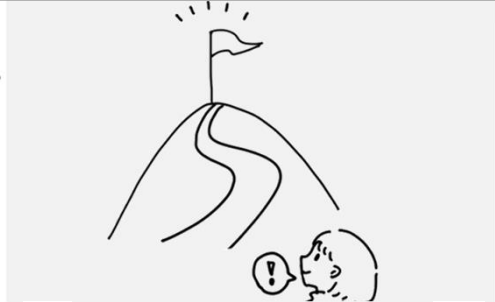

R 相談者と支援者の二人三脚で支援を進めたい
相談してよかった/支援できてよかったを双方で感じたい

3.1.2 デジタル化の方向性

3.1.2.2 検討会2回目～デジタル化の方向性～

グループCでは、「経験の差」や「立場の違い」についての議論が盛り上がりました。共通ルールを用いることは、認識齟齬や品質のバラつきを防ぎ、円滑な多機関協働の実施が図られると考えました。

グループC：木更津市、香取市、千葉市

				
得票順位	1位	2位①	2位②	その他ポイント
	4票	3票	3票	
ありたい姿	Q 過去・類似ケースの検索 過去の関連資料や類似事例が簡単かつ素早く実施出来ることで、負担軽減と共に、迅速なフォローの実現に繋がる	A 目的・ゴールの明確化 記載すべき情報(目的やゴールなど)の明確化によって、面談や記録の質が上がり、支援の質が向上する	C 資料毎のバラつき低減 共通ルールに則り、記録資料の品質バラつきが減ることで、支援員の負担が軽減される	M 多機関協働事業者をまとめるリーダーシップを育みたい 経験値に依存しすぎるのではなく多機関協働の経験の浅さをデジタルでカバーできたらいい
想い	検索性を向上させることで、経験の差を埋めたい	異なる立場でも、目的やゴールを統一したい	異なる立場でも、誤解を生まない記録をしたい	P モニタリングの制度を整えたい 多機関が関わってもケースのモニタリングはしっかり行いたい
共感理由	<ul style="list-style-type: none"> 若手が増加しても、経験値の高い職員のスキルに頼りすぎないようになる 類似事例がわかることで支援方針検討の助けになる 	<ul style="list-style-type: none"> 最初に目的やゴールを設定することで多機関が関わっても同じ認識を持てる 支援に途中参加する人でも、背景やゴールが分かると嬉しい 	<ul style="list-style-type: none"> 経験値による記録の差（量や質）が生じなくなる 異なる分野や機関でも、単語の意味を同一にしたい 	R 相談者と支援者の二人三脚で支援を進めたい 心理的安全性を大切にしたい